



神谷 直子 議員

赤ちゃんとお母さんの健康について

問 多胎児支援は？

答 母親の不安に寄り添い、リスクを説明し、不安を解消できるようにしている。双子の親の会など、ボランティアの方々と当事者同士で悩みを相談できる場を運営している。

問 父親の育児支援については？

答 母子手帳の発行とともに、パパの心得のガイドブックを渡している。また、4か月検診時に「パパ教室」を開催し、子の発達の様子や遊び方などを指導。年間60人以上が参加している。

問 外国籍の方への対応は？

答 希望に合わせ8か国語での母子手帳を発行し、相談は通訳を介している。

問 中学3年生を対象に、小中の健康診断結果の振り返り可能な仕組みができる。どのような？

答 小中学校9年間の本人の健康診断結果が、紙と携帯アプリで閲覧できる。



今原 ゆかり 議員

選挙事務について

問 新たに選挙権を得る、若者の投票率向上に向けての啓発活動は。

答 県の選挙管理委員会職員と高浜高校に出向き、選挙出前トークや模擬投票を行うなど、高校生を対象に、選挙を身近に感じてもらえる工夫をしている。

問 期日前投票をされる方は増えていると思うが、市議会議員選挙における状況は。

答 平成19年が8.56%、23年が12.9%、27年が13.91%、今年が14.92%と、増加している。

問 投票所入場券を早期配達することで、投票率の向上につながると思うが。

答 早期配達には選挙の有無の見極めを含め、費用面の問題や配達人員の体制整備等の問題もある。告示日以後の市内全域配達には3日程度を要するとのことで、とりわけ市長選挙や市議会議員選挙は、少しでも早く入場券が届くように努めていきたい。

職員の女性活躍について

問 職員の男女比は？

答 平成31年4月1日現在、全職員数277人、女性は132人で47.65%。

問 女性職員への健康（月経随伴症状、メンタル、更年期等）の配慮は？

答 生理休暇の取得を制度として設けている。平成28年度以降、年1回ストレスチェックを実施し、平成30年度には部長・リーダーを対象に研修し、メンタル不調への気付き、職場内でのケア等を学んでいる。更年期については特に配慮をしておらず、今後の課題としていく。

問 イクメン・イクボス等の研修などは？

答 イクメンについては、平成30年3月に子育て応援ハンドブックを作成し、配偶者出産休暇や育児休業取得について周知、育児休業の取得を促す。イクボスは、毎年4月にリーダーと幼保園長を「子育て応援リーダー」とし、両立できる職場環境づくりを推進し、職員のワーク・ライフ・バランスや多様性を理解するよう「イクボス研修」を実施。働き方改革で生産性を高め、長時間労働を是正するよう努める。

教育行政について

問 ここ数年で外国籍の児童・生徒が増えていると思うが、日本語教育が必要な児童及び生徒数の状況は。

答 5月1日現在、外国籍の児童・生徒290人のうち、日本語教育が必要な児童・生徒は173人で、各校に日本語教育担当教員が県費で配置されている。

また、高浜小学校と翼小学校に設置されている「くすのき」には、日本語の初期指導に当たる指導教員を市費で各1名ずつ配置している。

問 「くすのき」での学習を終了した外国籍の児童・生徒には、その後、どのように対応しているのか。

答 引き続き、校内で日本語教育担当教員による通常の授業時間内での個別対応等によって、日本語指導を継続していく。日本語教育が必要な児童・生徒については、個別に指導計画を立て、計画に基づいて指導をしていく。各学級でも、他の子供たちと違った日本語習得のための課題を与えるなど、担任も、日本語担当教員と連携しながら支援をしていく。